

東日本大震災の影響とカシオの対応

2011年3月11日に発生した東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。
この度の震災に対する影響とカシオの対応を以下のとおり報告します(2011年7月末日)。

カシオの状況

カシオでは、一部の事業所が被災しましたが、重大な人的被害もなく、幸いにも早期に復旧することができました。しかしながら、お取引先や調達先の被災などによる部品調達の遅れの影響などにより、生産拠点の稼働状況がやや落ちています。

対策として、調達先企業の分散化やグループ内での部品内製化などを推進しており、稼働状況の早期回復を進めています。

震災による製品品質への影響

大震災およびそれに伴う停電によるカシオ製品の品質への影響はありません。また、東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質・放射線の影響に関しては、国内生産は、山形県と山梨県で行っていますが、両県の放射線量値は、文部科学省が調査し、人体に影響ない数値であることが公表されています。また、カシオ製品に関し、生産や物流の現場で定期的に放射線量の測定を実施して、安全性を確認しています。

被災したお客様への特別対応

今回の東日本大震災に伴い被災された地域の方々への支援策として、災害救助法が適用となった地域の市町村で被災したカシオ製個人向け製品の修理を、2011年9月30日受付分まで、通常修理料金の半額にて対応しています。

被災地への支援活動

カシオは、被災者の救済と被災地の復興に貢献するため、ジャパン・プラットフォームに対する支援金5,500万円の拠出に加え、従業員からの寄付にあわせて会社が支援金を上乗せするマッチングギフト制度の活用による募金活動を実施しました。この結果、海外も含めた従業員からの募金総額約1,057万円とカシオ計算機の拠出額2,200万円をあわせた合計約3,257万円を、日本赤十字社、被災地域の地方自治体(JAM経由)、およびジャパン・プラットフォームに寄付しました。

また、今回の震災によって両親を亡くした震災孤児を支援するため、「あしなが育英会」の「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」へ継続的に寄付を行っていきます。寄付金額は2011年度は500万円、以降毎年200万円を10年間継続し、総額2,500万円を拠出します。

以上より、カシオグループの拠出する支援金総額は1億200万円となります。

この他、仮設住宅に向けた置時計・掛時計の寄贈や、被災した区市町村の災害対策本部に対するハイブリッドGPS機能付デジタルカメラの寄贈、教材を損失した学校に対する電卓等の寄贈などの支援も継続して行っています。

カシオは、今後も引き続き、被災地の方々のニーズを把握しながら当グループとしてできる限りの支援を行っていきます。

カシオの節電対応

震災以降、カシオでは、オフィス・看板等照明の一部消灯、空調設定温度の変更、エレベーターの一部停止、クールビズ適用期間の拡大等節電対策を進めてきました。

今夏発動された電気事業法第27条に基づく電力使用制限令に対しては、上記節電施策を一層強化する他、土曜休日の水曜日への振替等の諸施策を実施することで積極的に取り組んでいきます。

また、7月より就業時間帯の主要拠点の電気使用量を社内ポータル上でモニタリングできる仕組みを構築し、各事業所の従業員が現在の電気使用量を知ることによって節電意識高揚につなげていきます。